

都島区学校教育フォーラム 会場からのご質問・ご意見と答え（要旨）

1. 学校選択制

学校選択制を導入した場合の入学後の選択し直しについて

（会場から）

- ・ 学校選択制を導入した場合、入学後に変更が出来ないのはどうしてなのか。
- ・ ユーザーの立場からすれば、選択肢は多いほうがいい。実際に入学してみないと分からない部分もある。本来、学校選択制に求められる姿も踏まえながら、入学後の途中での変更も視野にいれて検討して頂きたい。

（教育委員会事務局）

- ・ 現時点では詳細は決まっていないが、他都市では、保護者が選択される段階で複数の学校を見たうえで選ぶので、選んだ以上は小学校6年間、中学校3年間は通学して頂きたいとのことである。
- ・ 本来あってはならない、いじめなどの特別な事情があれば別だが、もう一度選択し直したいというだけの場合は、どの教育委員会でも認めていない。
- ・ その他、施設状況などの課題もあるが、熟議の中でも議論してまいりたい。

指定外就学での対応について

（会場から）

- ・ 特別な事情がある場合は、指定校以外の学校に通学していることがあるとのことだが、都島区ではかなりの児童・生徒が他校に通学しているのか。どのような事情なのか（※）。
- ・ （隣の校区の学校が近いのに行けないという）通学距離の問題は理解できる。都島区でも友渕など校区の見直しもしている。まず、今の制度で、出来ることはやって頂きたい。

（教育委員会事務局）

- ・ 指定外就学は、大阪市でも許可基準を設けて運用している。学年の途中で転居された場合は、転居先の学校に通学して頂くのが原則だが、友人関係を考慮して年度末まで引き続き従前の学校に通うことについて、認める場合もある。
- ・ 指定外就学は、学校選択制とは異なるものだが、東京都では、その許可基準の内容が本市とは異なり、多様である。隣の学校が近い場合の指定校の変更も認めている区があるが、本市の場合は認めていない。今後、熟議の場で指定外就学についても議論する予定である。

※ 補足（フォーラム終了後に資料確認し、質問者に回答）

- ・ 一定期間以内に住宅の新築や購入により転居することが確実な場合で、あらかじめ転居先の学校へ就学を希望するとき／学年中の転居で、学年末までの間（小学校5年、中学校2年は卒業までの間）、引き続き従前の学校へ就学を希望するとき／小学校の児童で、保護者の就労等により留守家庭児童となり、保護者不在時に本人の在宅が困難な場合で、保護者の勤務地の通学区域の小学校、又は、保護者に代わる親族の住所地の通学区域の小学校へ就学を希望するとき 等

- ・ 以上の要件に該当するケースが、都島区内で平成 24 年度（5 月 14 日現在）、小学校 11 件、中学校 6 件、計 17 件

特色ある学校づくりについて

（会場から）

- ・ 学校選択制の導入のねらいとして、特色ある学校づくりが進むとの説明があったが、義務教育、なおかつ、公的教育である小・中学校で、特色ある学校が必要なのか疑問に思う。
- ・ 日本全国、保護者のお仕事の関係で転校などもあるが、どこの学校に通学しても等しいレベルで均質な教育を受けられるものだと考える。
- ・ 特色ある学校づくりの特色の内容によっては、教育の機会均等にも反するのではないか。

（教育委員会事務局）

- ・ 教育内容は、文部科学省が定める学校指導要領に準拠している。どの学校に通学しても、同じ内容の授業を受けられる。
- ・ 特色は、例えば、地域の歴史・産業の学習を、地域の方のご協力を得ながら取り組んでいる学校があるが、それらを更に充実させていくなどである。
- ・ 学習内容で学校間に格差をつくるものでないことはご理解頂きたい。

学校選択制を導入するねらいについて

（会場から）

- ・ 「導入するねらい」が明確でないと思う。メリットと書いてあることが、メリットではなく、デメリットである可能性がある。
- ・ いじめをなくすとか、最近ではグローバルな変化に対応していく子どもを育てる、などいろんなことが言われるが、ねらいは何なのか。他都市でも同じねらいなのか。

（教育委員会事務局）

- ・ メリットも熟議の中で整理していきたい。資料では学校選択制を導入している複数の他都市からメリットについて聞き取った内容を整理して記載している。
- ・ 選択制導入の背景は自治体によって様々である。東京都では、私立学校への進学率が高く、それを公立小中学校の課題として捉えており、学校選択制を導入する背景となっている。

障害のある子どもへの対応について

（会場から）

- ・ 大阪市教育委員会は、障害のある子どもを地域で育てる方針をとってきたと思う。
- ・ 学校選択制が導入された場合、地域の学校の設備が整っていない場合、整った学校に行ってくださいとか、特別支援学級ではなく特別支援学校を勧められるなど、障害児として隔離されてしまうような懸念がある。

- ・ 一緒に育ってきた友達が他の選択された学校に行って、障害児が近所の子どもと一緒にいけないことも懸念される。今後どのような方針になるのか。

(教育委員会事務局)

- ・ これまでは入学時に、地元の学校に通って頂くか、特別支援学校に通って頂くか、保護者の方と相談をさせて頂いている。個別に丁寧に対応する仕組みは、仮に学校選択制を導入しても、変更することは考えていない。
- ・ 他区の説明会でも「学校選択制を導入すれば、障害のある子どもがおきざりになるのではないか」というご意見もあった。反対に、当事者から「学校選択制が、出来れば地元校だけでなく、周辺も含めて選択できる余地も出来る。障害児だけでも、選択の幅を広げてもらえないか」というご意見もあった。いずれにしても、きっちり整理してほしいというご意見を頂いているので、熟議で議論していく。

学校選択制導入の決定方法、統廃合との関係、教職員の負担について

(会場から)

- ・ 区長が決めるということだが区民の意見は聞かないのか。区民投票はしないのか。
- ・ 中学校給食は資料ではアンケートで75パーセントが賛成しているとあるが、学校選択制も学校全体でアンケートをとったという実績があるのか。
- ・ 少子化で大阪市でも子どもが減ってくるが、学校選択制の導入によって今後、児童生徒が減ったときに、学校が統廃合されるということが絶対に無いのか。
- ・ 東京都では、教職員の仕事の量が増えていると聞く。学校の先生に負担を強いるのか。先生の数を増やすなど、学校選択制に向けての職員の配置はあるのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 市長からお聞きしているのは、現在の就学制度は、教育委員会が決められているが、保護者の意向をお聞きするプロセスが無いのではないのか、保護者が10人いれば、中には校区外の学校を選択したいと考える保護者もおられるのではないのか、そういった保護者の意向を反映できていないのではないのか、ということである。
- ・ 学校の統廃合については、学校適正配置審議会の答申で考え方を整理してあり、学校の統廃合と学校選択制は、別の課題であると市長に説明している。
- ・ 学校、教職員への負担については、熟議には、小・中学校の校長代表も委員として加わっている。現場の負担も含めて、ご意見は出てくると思う。

(区長)

- ・ 本日のフォーラムで区民の皆様の生のお声をお聞きし、また、アンケートでも皆様のご意見をお寄せ頂きたい。アンケートは区民モニターの方にもご協力をいただいている。今後、学校のPTAの皆様にもお伺いする。
- ・ 導入するかどうか、どの時期から導入するのか、どの方法を採用するのか、熟議での議論も踏まえて検討していく。
- ・ その上で、秋に一定の判断をしてまいりたい。区民投票は現時点では検討していない。

学校選択制導入の是非

(会場から)

- ・ 何故、区で決めないといけないのか。
- ・ 今まで決めてくれていたことを、何故、変えないといけないのか。区民からすれば取ってつけようにやられて、保護者にも負担があるし、メリットを説明されても、いいことは感じない。
- ・ 学校独自で決める方法もあるのではないか。地域にあったやり方をするのが一番いい。現状のままという項目も選択肢に入れながら、議論したらいいのではないか。それも含めて、熟議の中で検討して頂きたい。

(教育委員会事務局)

- ・ それぞれの意見には、相応の理由がある。それらの意見を踏まえて、熟議では、幅広い議論をしていく。熟議では、ひとつの意見に絞込みは行わない。複数の考え方や案を提示していきたい。

(区長)

- ・ 区民モニターからご意見をお伺いするため、アンケートも実施しているが、賛成もあれば、反対もあり、いろいろなご意見を頂いている。
- ・ 本日のフォーラムでも、お手元のアンケート用紙にご意見を記入頂き、それを踏まえながら検討していきたい。都島区にとって一番いい方法を考えていきたい。

私立への進学状況について

(会場から)

- ・ 首都圏では私立に 20～40%位、通学しているとのことだが、現在、都島区で小・中学校の何パーセントぐらいの方が私立に通学しているのか。
- ・ 今後、私立への進学率は増えていくのか、公立は減っていくのか。

(区長)

- ・ 23年5月1日の統計数値では、都島区内の小学校の児童数は約4,600人、市立は97.1%、国立は0.3%、私立は2.6%。市平均とほぼ同じ数字で（市平均で）私立は2.6%となっている。
- ・ 中学校の生徒数は約2,300人、市立87.4%、国立等は0.7%、私立は11.9%。これも市平均とほぼ同じ数字で（市平均で）私立は11%となっている。

(教育委員会)

- ・ 私立の学校数は、東京と異なるが、大阪では私立への進学率が急激に増えているわけでもなく、落ち込んでいるわけでもない。
- ・ 都島区の私立進学率は、概ね市の平均に近い。中学校は区によってかなり進学率が異なっており、5%もない区もあれば、30%近くの区もある。

地域との関係、通学の安全などについて

(会場から)

- ・ 全ての子どもが地域の子どもと共に学び、地域の方と関わりながら、卒業していくことが大切。都島区でも子ども会などで、地域と触れ合い、支えあっている。
- ・ 登下校も安全面が心配である。通学の安全が保護者の責任というのは無責任だと考える。
- ・ 東京都の意見だけではなく、進めていない都道府県の意見も聞いてはどうか
- ・ 公開抽選で外れた子どもが、行きたくなかった学校に行くというのは問題である。

(教育委員会)

- ・ 行きたい学校、行きたくない学校があってはならないし、それは学校選択制を導入するしない以前の問題である。すべての子どもや保護者に地元の学校が良いと思っただけのよう、各小・中学校で校長をはじめ教員が日々一生懸命取り組んでいる。
- ・ 東京でも7割から8割の方は、学校選択を検討された結果、地元の学校が一番いいと選んで行っている方が多い。
- ・ 今、地元の学校以外の情報が入らない中で、他の学校もいろいろ見ていただいて、地元の学校が一番いいと保護者をご納得のうえで選択頂くのが良いのではないかと考える。